

授業のねらい

- ①生活「きれいな花を育てよう」 自分の育てている朝顔を観察し、生長を実感する。
- ②図画工作「未来のわたし（立体）」 未来の自分の姿をイメージして作製した作品を鑑賞する。
- ③体育「とび箱」 技のポイントを確認しながら、自分の課題を把握して練習する。

タブレット端末活用の工夫／教育データ活用の工夫

- ①自分の育てた朝顔をタブレットで撮影し、観察カードに書く。
自分と友達の朝顔を葉の形や色を拡大してじっくりと観察・比較して、違いを話し合う。



全体で共有中の授業風景

- ②未来の自分の姿をイメージし、将来なりたい職業で働く姿や独立してやってみたいことを立体で表現する。
身の周りの小物など細部までこだわって、鑑賞会の際に、児童に自分の作品を撮影させ、こだわりのポイントについて説明させた。



ゲーム開発をしている様子。P C 内部まで作りあげたので、児童の撮影写真を全体共有し、説明した。写真は児童が撮影した。

- ③自分の行う技のポイントを確認しながら、課題を把握する。
専用アプリの試技動画を体育館に1台常設する。
児童がいつでもタブレット端末で、動画を確認できるように、学級の Teams にアップロードする。



自分の課題を解決するために、動画を確認しながら、技の練習を行った。



児童の様子

- 多くの児童が、タブレット端末に慣れ、「楽しいもの」から、「鉛筆やハサミなどと同じ道具」という意識に変わりつつある。
- 高学年はツールの一つとして、使いこなすことができるようになってきている。本校の一部の教員は、社会や理科のまとめをノートかタブレットのどちらでも記述可能とし、児童ごとの特性に合わせた指導を行っている。
- 低学年はまだタブレットが物珍しく、使いたい・遊びたいという気持ちが強い。そのため1学期、2学期と使う頻度を増やし、慣れさせたい。

成果

- 言葉で伝えづらいもの、細かく見る必要があるもの、繰り返し見たいものに関して動画や写真で保存し、自分で見る活動は効果的な場面が多かった。低学年の学校探検や朝顔の観察など、タブレット端末の練習につながる単元も多いため、今後も計画的に扱えるようにしたい。体育や図工の単元や題材においては、やり方を動画で視聴することで、技能を高めることができ、積極的に活用していきたい。

課題

- 手本をすぐに見られる環境のため、すぐに正解を確認したい児童の姿が見られた。特に図工では、手本通りに描きたい・作りたいという声が聞こえた。「参考にすること」と「真似ること」の違いや、自分なりに努力したり考えたりすることの大切さを伝えていく必要がある。
- ICTを活用すべき単元や題材について考え、年間を通して計画していく必要がある。